

加古川平成ロータリークラブ
 会長 網本 徹也
 幹事 鳥井 俊介
 広報小委員長 原田 悟
 2680 地区ガバナー 矢坂 誠徳



例会日／毎水曜日 18:00～19:00・例会場／加古川商工会議所会館
 事務局／加古川市加古川町溝之口 800 加古川商工会議所会館
 Tel. 079-422-8000 FAX. 079-422-8100

ホームページ <http://k-heisei-rc-com> / Eメール heiseirc@basil.ocn.ne.jp

2026～2027 年度 RI 会長 オンラインカ・ハキーム・パバロラ

No. 1634 September. 2. 2026

例会プログラム

第 7 回（ 9 月 2 日 ）

卓話

「ガバナーエレクト辞任をめぐる
 規定と運営の考察」

林 知宏会員

例会当番 高田

次週例会プログラム

（ 9 月 16 日 ）

卓話

「障害のある子どもとの活動」

（公財）ひょうご子どもと家庭福祉財団
 理事長 尾上 尚司氏

次週例会当番 高松

前週例会報告

- ◇ ゲスト 神戸モーニングロータリークラブ 佐世 満美子氏
- ◇ ビジター
- ◇ 出席率 先 週 会員数 17 名 出席数 11 名 出席免除 2 名 欠席数 4 名
 先々週 会員数 17 名 出席数 11 名 出席免除 2 名 欠席数 4 名
- ◇ 欠席者 4 名 井上 高田 岡田 松野
- ◇ メークアップ 2026 年 7 月 26 日 クラブ活性化ワークショップ 林
 2026 年 8 月 22 日 第 2 回 R L I 委員会 林



RI テーマ 持続可能なインパクトを生み出そう

本日の幹事報告

※ 例会欠席の時は必ず事前に事務局へ連絡！

① 回覧します

・地区補助金プロジェクト見学訪問のご案内(上郡佐用 RC)

② Box に月信、ロータリーの友、2025-2026 年度地区大会記録誌、加古川 RC・加古川中央 RC クラブ会報誌を入れております。

③ 次週 9 月 9 日(水) 休会【定礎第 7 条第一節(d)】となっております。

また、次々週 9 月 16 日(水)は尾上尚司様が来られますので少しお早目のご到着をお願いいたします。

先週ニコニコ箱



- | | |
|--|----|
| ◎ 佐世様、本日は暑い中ありがとうございます…………… | 網本 |
| ◎ 佐世満美子さんようこそお越しくださいました。卓話よろしくお願いします…………… | 鳥井 |
| ◎ 佐世さん、はじめての他クラブでの卓話ががんばってください。…………… | 林 |
| ◎ 夏がぶりかえしてきました。みなさんご自愛下さい…………… | 林 |
| ◎ 佐世様、本日はご来訪頂きありがとうございます。卓話よろしくお願いします…………… | 原田 |
| ◎ 佐世様、本日はよろしくお願いします。…………… | 山本 |
| ◎ 佐世様よろしくお願いします。…………… | 藤井 |

9 月のお祝い・おめでとう



誕生日： 14 日 永田博巳会員

在籍年： 32 年 林 知宏会員

SONG TODAY

あかとんぼ

作詞 三木露風
作曲 山田耕筰

夕やけ小やけの 赤とんぼ

負われて 見たのは いつの日か

山の畑の 桑の実を

小籠に摘んだは まぼろしか



感謝の力

ロータリー財団ドナーサミットで、ロータリーのリーダーが、感謝はただ言葉にするものではなく、日々の行動を通じて実践するものであることを強調しました

文： **Etelka Lehoczky**

2026年8月27日

ロータリー財団ドナーサミットで感謝の力の重要性を強調

台北で開催された「2026年ロータリー財団ドナーサミット」を振り返ったとき、ロータリー財団管理委員会のビッキー・ピュリッツ副管理委員長の心には「一つの言葉」が浮かびました。それは、「感謝」です。

「皆さん一人ひとりへの感謝です。惜しみないご支援、リーダーシップ、そしてお互いのため、また世界のために行動する姿勢に、心から感謝しています」と、ジェニファー・ジョーンズ 2026-27年度管理委員長に代わってサミットに出席したピュリッツ副管理委員長は述べまし

た。

「感謝は、人と人とのつながりを深めてくれます。ロータリーの活動は一人の力で成り立つものではなく、一人ひとりの思いやりにこそ大きな力が宿っているのです」と、ピュリッツ副管理委員長は話しました。

1,000 人を超える寄付者が集まったこのサミットは、2026 年 6 月 15 日、2026 年ロータリー国際大会中に開催されました。ロータリー財団の寄付者が集う年間最大のイベントであり、ロータリーを支える人びとに感謝を伝える大会行事の一つでした。

「寄付は、今日のためだけに行うものではありません。そこには未来に受け継がれる価値観と、語り継がれていくストーリーがあり、自分たちの存在を超えた何かを信じる心があるのです」

国際大会では、ロータリーへの熱い思いと、その使命に対する寄付者の強い意志が随所に感じられました。大会中には、25 万米ドル以上を寄付した人を称えるアーチ・クランフ・ソサエティの新規入会者・レベルアップ者 40 名を称える式典が 2 回開催されました。また、「ロータリー財団ユニティ・ボール晩餐会」には 300 人以上が登録し、「世界でよいことをしよう晩餐会」にも 200 人以上が参加しました。

2025-26 年度管理委員会のホルガー・クナーク管理委員長は、ロータリーが世界各地で生み出してきた幅広いインパクトを紹介するとともに、惜しみなく寄せられる支援への感謝を伝え、次のように述べました。

「私たちは、国やプログラム、世代の垣根を越えて力を合わせ、確かな前進を遂げてきました。これこそ、『よいことのために手を取りあう』ことであり、ロータリーが機会を切り開く方法です。私たちは、地域社会が成長する機会、人びとがつながる機会、そして、持続的な変化を生み出す機会をつくっているのです」

クナーク管理委員長は、ロータリー財団がこの 100 年間で、ロータリーのプロジェクトのために総額 55 億米ドルを拠出してきたことにも触れました。これらの資金は、平和の推進、疾病との闘い、安全な水の提供、母子の健康支援、教育の向上、地域経済の発展、環境保護など、世界各地でさまざまな活動を支えてきました。

台湾のパストガバナーであるネリー・リンさんにとって、ロータリーの世界的な親睦を実感したのは、一袋のスパイスがきっかけでした。2020 年、新型コロナウイルスの世界的流行の最中、リンさんはインドのコーチン・ロータリークラブから、ささやかな贈り物としてスパイスを受け取りました。リンさんは当時を振り返り、世界中のロータリー会員が、新型コロナの影響を受けた地域社会に、医療をはじめとするさまざまな支援を届けていたことを語りました。

「その年、世界中で数千件のグローバル補助金プロジェクトが実施されました。私も、寄付やファンドレイジングを通じて、14 件のグローバル補助金を支援しました」。そのような中でスパイスを受け取ったリンさんは、「感謝の気持ちこそ、世界で行動する人びとが有意義なつながりを築くための最も誠実な方法の一つだと感じた」と話します。

リンさんの兄で、ガバナーエレクトであるニッキー・リンさん、そして母親のジュディ・ファンさんもアーチ・クランフ・ソサエティ会員であり、ご家族は世代を超えてロータリー財団を支援してきました。リンさんによると、父親のリカルドさんは台北東ロータリークラブの設立に尽力し、2009 年に彼が亡くなった後、家族が再びロータリーへの参加を強めました。

「私は、父が生涯にわたってロータリーに貢献したことを称え、『台北リカルド・ロータリークラブ』を設立しました。家族はほぼ全員、ロータリー会員です。母はいつも、『ロータリーはシンプルだ』と言っています。財団への支援は、最も意義深いかたちで貢献する方法だと思います」

イベントの最後に講演を行ったピュリッツ副管理委員長は、リンさんの言葉に賛同し、次のように語りました。

「感謝の心は、これからも私たちのリーダーシップ、奉仕、そして互いを称えるあり方を導いていくことでしょう。感謝は、ただ言葉にするだけではなく、日々の行動を通じて実践するものです」

「そのことを胸に抱いてサミットを後にしてください。心を動かされた出来事について考え、その感動を今度は誰に体験してもらいたいかを考えてみましょう。また、この活動を世界へと広げるために、自分に何ができるかを考えてください」